

◎今週の御言葉 「兄弟が罪を犯した場合、何度まで許すべきか」(創世記45章 1 節～15節, マタイの福音書18章21節～35節)

「私はあなたがたがエジプトに売った弟のヨセフです。今、私をここに売ったことで心を痛めたり、怒ったりしてはなりません。神はいのちを救うために、あなたがたより先に、私を遣わしてくださったのです。」(45:4, 5)、 「悪いやつだ。おまえがあんなに頼んだからこそ借金全部を赦してやったのだ。私がおまえをあわれんでやったように、おまえも仲間をあわれんでやるべきではないか。」(18:32, 33)

◎主が教えてくださった「主の祈り」の中に「われらに罪を犯す者をわれらが赦すごとく、われらの罪をも赦したまえ」との祈りを祈っております。「では何度まで赦したら良いのか」との弟子の質問「何度まで」は私達の共通の疑問です。

◎創世記45章はヨセフの生涯全体を通じての中心的なメッセージの一つです。同時に聖書に示す神様の御業の本質を明らかにしているのです。人間の目には、最も忌まわしい肉親相克からの出発であったが、神様の側からは、ヨセフが神様に遣わされるためのものとして認められているのです。

ヨセフの生涯(37:2～50:26)、a, ヨセフの少年時代(37:2-36)、b, エジプトでの投獄(39:1-40:23)、c, エジプトの総理大臣となる(41:1-57)、d, 兄弟たちの来訪と和解(42:1-45:28)……。ヨセフは、兄ユダの身代わりの申し出に(44章)、強く心を動かされ、自分を制することが出来なくなって人払いをし、自分の身を明らかにして声をあげて泣いたのです。ヨセフは彼らを赦し、これは家族を救おうと神様が行われたことだと告げたのです。兄たちは食糧を手にすることが出来ただけでなく、ヨセフの元気な姿を見、その口から赦しのことばまで聞く。すべて神様の憐れみを強く覚えさせられたのです。

◎マタイの福音書18章21節以降に「兄弟が私に対して罪を犯した場合、何度まで赦すべきでしょうか。7度まででしょうか」とのペテロの質問に対しイエス様が答えられた譬えが記されています。ユダヤ教の教師は「3度まで赦せ」と教えたので、ペテロは「7度まで赦す」なら申し分ないと思って質問したのです。しかしイエス様は「7度を70倍するまで」と言われたのです。譬えの1万タラントは1国の王の身代金に匹敵する大金です。人間ひとり一人が負っている罪の負債は、到底償いきれないのです(詩篇49:7, 8)。百デナリは1万タラントと比べれば取るに足りない少額です(1デナリは一日の日当分)。「神がキリストにおいてあなたがたを赦して下さったように、互いに赦し合いなさい」(エペソ4:32)。